



2014 ワールドシアターデイ メッセージ

by ブレット・ベイリー

人間社会があればどこであれ表現芸術の精^{エスプリ}霊は抑えきれず自ら姿を現す。

小さな村々の木々の下に、大都会のハイテクを備えた舞台に、学校のホールや野原や寺院の中に、スラム街や公共広場やコミュニティー・センターや都心の地下街、等々に、これらの場に、人々は集う。私たちが、生身の肉体で呼吸し声を出し、人間というものの複雑さや多様さや脆弱さを表現しようとして創造発信する、つかの間の演劇表現に、共に心を通わせようと、集う。

そしてまた私たちは、涙を流して集い、思い出そうと集い、笑い、満足し、さらに深く考えようと集い、学び主張し想像してみようと集い、神業的技術の巧妙さや神の化身を前にして感嘆しようとする。美しいこと、思いやり、怪奇さ等を感じる能力に対して、ハッと息をのむために集う。

私たちはそこでエネルギーと力をもらい、そこにある様々に異なる豊かな文化を見て惜しみなく称賛する。

そうやって私たちを分け隔てる幾つもの境界は融け去ってゆくのです。

人間社会があればどこであれ表現芸術の精霊(エスプリ)は湧き上がる自らの存在を抑えきれず姿を現します。人々の居るところ、共同体、地域等で生まれるそのエスプリは多様な伝統の仮面や衣裳を付け、言語、リズム、身振り等を上手に生き活きと取り込みながら、私たちの内なる空間を開放してゆきます。

そしてこのようなエスプリを自身にも備え持って仕事する私たちアーティストは、己の心やイデーや肉体を通して、すべての日常茶飯的な慣例や燦めく神秘の中に、己自身のアートに対するリアリティーを示そうとして、自分で自分をそのエスプリに通じ合うとを感じるように仕向けているのです。

けれども、何百万という多くの人々が日々闘い苦しみ、抑圧的な体制と利己的な資本主義のもとに苦悩し、紛争と困窮から回避し、生き残らんと闘い続け、時にはプライベートな個の生活がシークレットサービスに侵害され、言葉一つ一つが官権の干渉に遭い検閲を受け、森は徐々に消滅し、生物の多くの種が絶滅の危機に瀕し、海は汚染されてゆくという、今のような時代に、尊重しなければ、と思うとしたら、私たちは一体何を尊重しようと感じるでしょう？

一つの国、人種、ジェンダー、性の好み、宗教、イデオロギー、ある文化構造が他の文化と比較し差別し優越するという考え、これらを無理に納得させようと試みるヘゲモニーの種々の秩序の中に存在する、不均衡な力関係に満ちた世界で、アートが、社会のアジェンダの拘束から切り離されるべきであるという当然の主張は、本当に人々に理解され護られ得るのでしょうか？

アリーナのアーティストであり舞台のアーティストである私たち。その私たちは、心や社会の知の力に潜在的に在る内なるスペースを開放し、人々を集め、感激させ、喜ばせ、情報を提供するために、そして希望と、心底から協力し合う世界を創造していくために、消毒済みのような無味乾燥な市場の需要に、順応しているのでしょうか？それとも私たちの持つ本来の力 - エスプリー - を、しっかり我が手に持ち続けているのでしょうか？

Translation : Yoko ODAGIRI